平成25年度第2回宗像市幼児教育審議会

議事録 (要点筆記)

期 日: 平成26年3月11日(火) 時 間: 19:00~20:30 会 場: 宗像市役所202会議室

審議会委員									
田中 敏明	×	村田昭	孝	×	斜	富	恵子		×
吉田 洋之	×	元岡 充代		0	内田 龍男			0	
髙杉 洋史	0	奥村 美香		0	假屋 君		和代		0
上野 大地	0								
事務局									
柴田 祐治	中野	野 万由美	保 謙司		髙橋 知子			子	
田中 典子									

【配布資料】

- 前回議事録
- ・ 宗像市幼児教育振興プログラム進捗状況
- ・ 平成25年度第3回宗像市保育所・幼稚園・小学校連絡会(保育参観)実施報告
- ・ 平成25年度第3回宗像市保育所・幼稚園・小学校連絡会(保育参観)アンケート結果

◇会長欠席のため、本日の進行は髙杉副会長にお願いする。

1 挨拶

副会長挨拶

2 議事

- (1) 幼児教育振興プログラムについて
- ・ 平成25年度事業の進捗と平成26年度事業計画について (事務局から説明)
 - ◆幼児期の子育てリーフレットについて

保幼小連絡会(保育参観)の意見交換会の中で、先生方から「小学校にあがった時の鉛筆の持ち方がばらばらである。」「保育所・幼稚園でここまで育てて、それをもとに1年生で指導していくといったような指針があれば良い。」といったような意見をいただいている。幼児教育研究協議会の中でも、小学校にあがるまでにここまで育てようという目安を作れないかということで協議を進め、毎年配布している家庭向けリーフレットを今回リニューアルすることとなり、本日原稿(案)を配布させていただいた。作成にあたっては、小

学校から入学説明会の資料を集め、小学校生活に向けた内容を追加している。それぞれの項目について、具体的な例や何故必要なのかを記載することで、保護者により伝わるようにしている。できれば7月辺りに配布して、夏休みに各家庭で取り組んでいただけるようにしたい。遅くても9月までには配布したい。

また、これと別に、保幼小の先生向けにも到達目標の目安を作成できればと考えており、 この件についても今後取り組んでいきたい。

≪全体に対する意見・質疑≫

◇自分の子どもが就学前だった頃に小学校の先生の話を聞く機会があり、鉛筆を持って書くのは小学校で教えることだと聞いていたので、子どもが興味を持って聞いてくる分には答えていたが、親が率先して持ち方を教えることはしなかった。目標という考え方もあるかもしれないが、学校によって考え方や方向性に違いが出てくるのではないか。ここまでは保育所・幼稚園、ここからは小学校でやってくださいという形になるとしたら、保育所・幼稚園と小学校の調整が大事になってくると思う。

⇒「入学前に鉛筆を持たせるときは正しい持ち方・使い方で練習しましょう。」と書いているように、字を覚えてくださいということではない。言われるとおり、鉛筆の持ち方は小学校で指導するが、その時に変な癖がついていると、慣れてしまってなかなか直りにくい。必ずこうしなければいけないということではなく、持つならこういう持ち方があるというスタンスで出したい。

◇配布するときに、今のような話ができると伝わり方が違う。もらうだけだとなかなか捉え にくい。

⇒例年、年度当初に配るだけで終わっていたが、作成の意図を伝えるための配慮も検討したい。

◇紙ベースにすると、紙面の都合で載せられる情報に限界がある。紙面に載せられなかった 情報をホームページにプラスして載せることもできるのではないか。

◇市の取り組みを保護者に知ってもらうには、興味を持ってもらうことが大事。そうすれば もっと広がっていくと思う。また、保護者としては、担任の先生が変わってもここだけは方 針が同じというものがあればありがたい。

⇒子どもたちの育ちにとってよりよい環境をつくるために様々な取り組みを始めているが、 市全体に伝わっていかなければ成果は現れないと思っている。1つのことをやるだけでは伝 わっていかないと思うので、いろいろな手法を重ね合わせながら、様々な媒体を使って伝え ていきたい。

◇例えば、各園が保護者向けに開催している講座等の機会を利用して、市が保護者に説明していく方法も考えられる。大変だとは思うが、相手を前に直接話ができればそれが一番いいと思う。

- ⇒機会があれば声をかけていただいて、繋いでもらえたらありがたい。
- ◇幼児教育振興プログラムもそうだが、作ったからには皆さんに知ってほしい。
- ◇紙媒体、ネット媒体だけではなく、何かの機会に誰かが説明すると、親の吸収の仕方が違うと思う。以前、別の小学校に勤務していた時に、保育所の園長から入学説明会よりもっと早い時期に保護者に話をしに来てほしいという依頼があり、9月頃年長児の保護者に小学校就学に向けた話をさせてもらった。幼小連携の一つとして受けたが、とてもいいことだと思った。
- ◇和式トイレのこと等、保護者にとって不安な事も多いと思うので、その時は小学校の先生 に来てもらって大変ありがたかった。
- ◇子育ての経験の中で、小学校にあがる前に字が書けないことに不安を感じ、園に相談したことがあった。こういったもの(リーフレット)があると大変ありがたいし、説明をしてもらえるとさらに安心できると思う。
- ◇ここで、本日の議事について承認したいがよろしいか。
 - 異議なし-

その他に、幼児教育に関して、委員の皆さんのご意見をお伺いしたい。

- ◇小学校の給食で初めて食べる食材や料理が増えてきているように思う。レパートリーの広い食事を体験することが大事なので、幼児教育の取り組みの中で、親子で参加できるような食育の取り組みも良いのではないか。
- ⇒母子保健の分野で、離乳食の時期から保護者と関わる取り組みは行っている。食事や掃除 等の基礎の部分が先々の歩みに大きく影響してくるという視点で、今後もしっかり関わって いきたい。
- ◇掃除にしても何にしても、経験していないことはできない。子ども達はやってみたいという意欲を十分持っているので、鉛筆の持ち方と一緒で、最初に根気よく教えることが大切。
- ◇保育所でも子どもたちが雑巾がけをしているが、人の役に立つ喜びを感じたり、毎日の体験の中で自分の周りをきれいにするという素地があれば、またやってみたいという気持ちに繋がると思う。
- ◇メディアのことが大変気になる。1歳前でも絵本をスラッシュしたり、赤ちゃんを泣き止ませたり子どもを叱る時に、親がアプリを使ったりしている。
- ◇料理や掃除もそうだが、時代の変化に合わせて様々な事が便利な世の中になっている。幼 児教育振興プログラムもそういった要素を取り入れる時代になってきているのかもしれな

V10

◇時代にそぐわないから教えなくていいという問題ではなく、料理にしても掃除にしても将来大人になった時に必ず必要な場面が出てくるので、小さい時に体験の場を与えることは必要だと思う。まずは小学校や園が保護者に伝えて、親同士でも学び合うことができれば良いと思う。

◇親同士で「こうしたらいいよ。」と伝え合う姿は園でも見られる。便利な世の中だからこ そ、伝え合うことがとても大事だと感じる。

◇リーフレットに書いてあるように、遊び・体験は大切。ゲームをしたりテレビを見ている間は、子どもの動きが止まってしまう。「ゲームはルールを決めて…」とか、何か一言欲しい。福津市ではノーメディアデイを作っている。実際に、小さい頃にメディアを制限している子どもは、大きくなってからも自分で制限することができており、成績にも繋がっているというデータが出ている。

◇保育所でも学習に取り上げたことがあるが、メディアは受身で浴びるばかりなので、自分で考えようとする力が削がれる。その辺はもっと伝えていく必要がある。便利だからといって安易にアプリを使うのも、やりたい欲求を止められなくなったり、後々影響が大きいのでそういったことをもっと伝えていく必要があると思う。

◇小学校低学年位までは親と話し合って制限することができても、小学校高学年、中学生位になるとメディア依存になり、制限しようとしてもできないような状況になる場合もある。 携帯電話も同じ。

- ◇子どもにも親にも、ある種の危険性があることを伝えていくべき。
- ◇今後も、市の取り組みを知ってもらうための努力をぜひお願いしたい。

⇒来年度に入って、保育所・幼稚園・小学校の先生方のご意見をいただきながらリーフレットを完成させていきたい。

⇒リーフレットは、小学校にあがるための準備に関することを整理したもの。本日の審議会で、子どもたちの育ちに関する重要なご意見をたくさんいただいたが、これらの課題については、今後、宗像市子ども基本条例に基づいて取り組んでいきたい。